第１号様式（第８条第１号）

（表）

指定事業所設置許可申請書指定事業所設置許可申請書

年　　月　　日

　　　(申請先)

　　　横浜市長

申請者　住　　所

氏　　名

（法人の場合は、名称及び代表者の氏名）

横浜市生活環境の保全等に関する条例第３条第１項の規定により指定事業所について

設置の許可を受けたいので、関係書類を添えて申請します。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 指定事業所の名称等 | 名称 |  |
| 所在地 |  |
| 指 定 事 業 所 で 行 う 指 定 作 業 | 条例別表の作業 | 指定作業番号 | 指定施設番号 | 指定施設の名称 | 設置台数 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| 事業開始予定年月日事業所設置年月日（既に設置されている事業所の場合に限る。） | 年　　　月　　　日（　　　年　　　月　　　日　　　） |

（Ａ４）

（裏）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 他の公害関係法規等の手続状況 | □　大気汚染防止法 | 年　 月　 日 提出 |
| □　水質汚濁防止法 | 年　 月　 日 提出 |
| □　騒音規制法 | 年　 月　 日 提出 |
| □　振動規制法 | 年　 月　 日 提出 |
| □　ダイオキシン類対策特別措置法 | 年　 月　 日 提出 |
| □　下水道法 | 年　 月　 日 提出 |
| □　廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | 年　 月　 日 提出 |
| □　その他（　　　　　　　　） | 年　 月　 日 提出 |
| 連絡先 | 　　　　　部　　　　　課　　　　　係担当者氏名電話番号　　　電話番号　　　　（内線）住　　　　　所　□申請者住所と同じ □指定事業所所在地と同じ □その他 |
| 添付書類 | ・　指定事業所概要書（第２号様式）・　公害防止方法概要書（第３号様式）□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |

（注意）１　条例別表の作業の欄には、同表の１から69までの作業番号及び作業名を記入してください。

２　他の公害関係法規等の手続状況の欄には、手続を行った法規について□内に*レ*印を記入し、その手続を行った年月日を記入してください。

３　連絡先の欄の住所でその他の□内に*レ*印を記入した場合は、住所を記入してください。

４　添付書類の欄でその他の書類を添付した場合には□内に*レ*印を記入し、その添付した書類の名称を（　）内に記入してください。

第２号様式（第８条第２号）

（１）

指定事業所概要書

|  |  |
| --- | --- |
| 業種 |  |
| 指定事業所における事業内容 |  |
| 指定作業の工程 |  |
| 地域 | □　第一種低層住居専用地域□　第一種中高層住居専用地域□　第一種住居地域□　準住居地域□　商業地域□　工業地域□　その他の地域 | □　第二種低層住居専用地域□　第二種中高層住居専用地域□　第二種住居地域□　近隣商業地域□　準工業地域□　工業専用地域 |
| 規模 | 資本金 | 事業所の従業員数 | 敷地面積 | 建物の床面積 |
| 円 | 人 | ㎡ | ㎡ |
| 敷　　地　　・　　建　　物　　の　　状　　況　 | 敷地の境界線事業所の位置及び周辺の状況 |  |
| 周辺の状況 |  |
| 敷地内における建物等の配置状況 |  |
| 建物等の構造 |  |
| 建物工事の種類及び工事予定期間 | □　新築　　□　増改築　　　年　　月　　日～　　　年　　月　　日 |
| 生コンクリートプラントを設置する場合にあっては、自動車の出入口の位置 |  |
| 不飽和ポリエステル樹脂の塗布の作業を行う場合にあっては、その作業の方法 |  |

（注意）１　□のある欄には、該当する□内に*レ*印を記入してください。

２　敷地・建物の状況の欄のうち、建物等の構造については、建築図面（平面図、立面図及び構造詳細図）を添付してください。

（Ａ４）

（２）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 指　　　　　　　　　定　　　　　　　　　施　　　　　　　　　設 | 指定作業及び指定施設番号 |  -( )-( )  |  -( )-( )  |  -( )-( )  |
| 名称 |  |  |  |
| 事業所における施設番号 |  |  |  |
| 種類及び型式 |  |  |  |
| 台数 |  |  |  |
| 規模又は能力 |  |  |  |
| 用途 |  |  |  |
| 構造・配置状況 |  |  |  |
| 燃料又は電力 | 種類 |  |  |  |
| 燃料中の成分割合(％) | 硫黄分 |  |  |  |
| 窒素分 |  |  |  |
| 総発熱量 |  |  |  |
| 通常の使用量 |  |  |  |
| 原材料（排煙の発生に影響のあるものに限る。） | 種類 |  |  |  |
| 原材料中の成分割合（％） |  |  |  |
| １日の使用量 |  |  |  |
| 使用状況 | １日の使用時間 |  |  |  |
| 季節変動 |  |  |  |
| 原材料等の品目、用途及び使用量 | 排煙指定物質、排水指定物質及び炭化水素系特定物質を含有するもの | 品目 | 用途 | １月当たりの使用量 | 含有物質 | 含有率（％） |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| その他のもの（主要なものに限る。） | 品目 | 用途 | １月当たりの使用量 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

（注意） １　指定施設の名称の欄には、別表第１の施設の欄の名称を記入してください。

２　事業所における施設番号の欄には、事業所で管理のために付けている番号、記号等を記入してください。

３　指定施設の原材料中の成分割合の欄には、硫黄分、窒素分及び燃焼に伴い排煙指定物質を排出する可能性のある成分について、その割合を重量比・容量比の別を明らかにして記入してください。

４　指定施設の熱源として電力を使用する場合は、種類の欄に「電力」と記入してください。

（Ａ４）

（３）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 用　　　水　　　量 | 水源別の状況 | 総使用量 | 水源別内訳 |
| 工業用水 | 水道水 | 地表水 | 地下水 | 海水 | 回収水 | その他 |
| 淡水 | 海水 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 用途別の状況 | 総使用量 | 用途別内訳 |
| ボイ　ラー用 | 原料用 | 製品処理・洗浄　用 | 直　接冷却用 | 間　接冷却用 | 温　度調整用 | 生活水 | その他 |
| (ｍ３/日) |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 排 　 水　 量 | 排水の種類別状況 | 総排水量 | 産業排水 | 生活系排水 |
| 工程排水 | 間接冷却排水 | その他 |
| (ｍ３/日) |  |  |  |  |  |
| 排水の排出先 | □　公共下水道（ □　分流式　　　□　合流式 ）□　公共用水域（　　　　　　　　　　　　　　）□　地下浸透□　そ　の　他（　　　　　　　　　　　　　　） |
| 用排水収支バランス |  |
| 用水及び排水の系統図 |  |

（注意） １　□のある欄には、該当する□内に*レ*印を記入してください。

２　排水の排出先の欄のうち、その他については、汚水等を別表第１の53の項に掲げる処理施設等に排出する場合にその排出先を（　）内に記入してください。

３　用排水収支バランスの欄には、用排水の通常水量及び最大水量を記入してください。

（Ａ４）

第３号様式（第８条第３号）

公害防止方法概要書公害防止方法計画書

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 公害発生源の指定施設等 | 発生する公害の種類 | 発生源での公害の程度の予測値 | 排出口・敷地境界線等での公害の程度の予測値 | 公害防止対策（予測値の算出根拠を含む。） |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| 指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法 | □　排煙の排出方法概要書□　窒素酸化物の排出量明細書（ボイラーに限る。）□　窒素酸化物の排出量明細書（ガスタービン、ディーゼルエンジン及びガスエンジンに限る。）□　炭化水素系物質の排出に係る施設の排出防止方法概要書（貯蔵施設、出荷施設及び給油施設に限る。）□　ばいじんの排出量明細書（廃棄物焼却炉に限る。）□　廃棄物焼却炉及び廃棄物焼却炉に係る排出ガス処理施設の設備概要書□　粒子状物質の排出量明細書□　粉じんの処理方法概要書□　悪臭の処理方法概要書□　排水の汚染状態及び量等の明細書□　排水の処理方法概要書□　地下浸透禁止物質の製造等をする作業に係る施設の構造概要書□　騒音の処理方法概要書□　振動の処理方法概要書□　上記に掲げる書類のほか、指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法を明らかにする図面、表等 |

（注意）１　発生する公害の種類の欄には、大気の汚染及び水質の汚濁に係るものにあっては、別表第２から別表第９まで、別表第11及び別表第12に掲げる物質名を記入してください。

２　指定施設等から発生する公害とこれに対する具体的な防止の方法は、規則第94条に基づきみどり環境局長が定める様式の書類を用いることとし、添付したものについて□内に*レ*印を記入してください。

（Ａ４）

細則第１号様式その１（第２条第１号）

排煙の排出方法概要書

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 指定事業所における排煙を発生する施設の番号 |  |  |  |  |  |
| 指定事業所における排煙処理施設の番号 |  |  |  |  |  |
| 排煙処理施設の種類、名称及び型式 |  |  |  |  |  |
| 排出ガス量（定格能力）（ｍ３N／ｈ） | 湿り |  |  |  |  |  |
| 乾き |  |  |  |  |  |
| 排出ガス中の酸素濃度 | （％） |  |  |  |  |  |
| 処　　　　　　理　　　　　　能　　　　　　力 | 排出ガス温度（℃） | 処理前 |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |
| 排　　　煙　　　の　　　濃　　　度 | 硫黄酸化物（容量比ppm） | 処理前 |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |
| 窒素酸化物（容量比ppm） | 処理前 |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |
| ばいじん（ｇ／ｍ３N） | 処理前 |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |
|  | 処理前 |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |
|  | 処理前 |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |
| 除　去　率（％） | 硫黄酸化物 |  |  |  |  |  |
| 窒素酸化物 |  |  |  |  |  |
| ばいじん |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| 排出口の高さ及び口径（ｍ） |  |  |  |  |  |

（注意） １ 排煙処理施設を設置していない場合は、排出ガスの温度及び排煙の濃度を処理前の欄に記入してください。

２　排煙の濃度の欄には、乾きガス中の濃度を記入してください。

３　排煙の濃度及び除去率の欄には、当該施設から発生する排煙中に含まれる硫黄酸化物、窒素酸化物及びばいじんについて記入するほか、炭化水素系特定物質及び排煙指定物質について、それぞれ当該物質の種類ごとに記入してください。

４　ばいじん濃度等の酸素濃度補正を行う施設については、補正値を記入してください。

（Ａ４）

細則第１号様式その２（第２条第２号）

窒素酸化物の排出量明細書（ボイラーに限る。）

１　ボイラーに係る窒素酸化物の排出量の許容限度等

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ボイラーの番号及　び　記　号 | ①窒素酸化物の排出量の許容限度　Ｑi (ｍ３N／ｈ)[×③] | ②係　　数Ｃi | ③定格能力運転時の乾き排出ガス量　(Ｏ２０％換算)Ｖ(ｍ３N／ｈ)[×⑤] | ④定格能力運転時の乾き排出ガス中の酸素濃度Ｏi (％) | ⑤定格能力運転時の乾き排出ガス量Ｖi（ｍ３N／ｈ） |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

２　ボイラー別の窒素酸化物の排出量等

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ボイラーの番号及び記　　　　　　　号 | ⑥窒素酸化物の排出量Ｑ(ｍ３N／ｈ)[②106×③] | ⑦窒素酸化物の排出濃度Ｃ(ppm)[2121－⑨×⑧] | ⑧乾き排出ガス中の窒素酸化物濃度Ｃs(ppm) | ⑨乾き排出ガス中の酸素濃度Ｏs (％) |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

（注意）　「Ｑi」、「Ｃi」、「Ｖ」、「Ｏi」、「Ｖi」、「Ｑ」、「Ｃ」、「Ｃs」、及び「Ｏs」とは、別表第３の１に定めるＱi、Ｃi、Ｖ、Ｏi、Ｖi、Ｑ、Ｃ、Ｃs及びＯsをいいます。

（Ａ４）

細則第１号様式その３（第２条第３号）

窒素酸化物の排出量明細書

（ガスタービン、ディーゼルエンジン及びガスエンジンに限る。）

１　ガスタービン、ディーゼルエンジン及びガスエンジンに係る窒素酸化物の排出量の許容限度等

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 施設の番号及び記号 | ①窒素酸化物の排出量の許容限度Ｑi (ｍ３N／ｈ) [×③]　 | ②係　　数Ｃi | ③定格能力運転時の乾き排出ガス量(標準酸素濃度換算)Ｖ(ｍ３N／ｈ)[2121－21－Ｏｎ⑨×⑤] | ④定格能力運転時の乾き排出ガス中の酸素濃度Ｏi (％) | ⑤定格能力運転時の乾き排出ガス量Ｖi (ｍ３N／ｈ)　　　 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

２　ガスタービン、ディーゼルエンジン及びガスエンジン別の窒素酸化物の排出量等

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 施設の番号及び記号 | ⑥窒素酸化物の排出量　　　　　Ｑ(ｍ３N／ｈ)[⑦106×③] | ⑦窒素酸化物の排出濃度　　　　Ｃ（ppm）[21－Ｏｎ21－⑨×⑧] | ⑧乾き排出ガス中の窒素酸化物濃度　　　Ｃs（ppm） | ⑨乾き排出ガス中の酸素濃度　　Ｏs（％） |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

（注意）　「Ｑi」、「Ｃi」、「Ｖ」、「Ｏi」、「Ｖi」、「Ｑ」、「Ｃ」、「Ｃs」、「Ｏs」及び「Ｏn」とは、別表第３の２に定めるＱi、Ｃi、Ｖ、Ｏi、Ｖi、Ｑ、Ｃ、Ｃs、Ｏs及びＯnをいいます。

（Ａ４）

細則第１号様式その３の２（第２条第３号の２）

炭化水素系物質の排出に係る施設の排出防止方法概要書

（貯蔵施設、出荷施設及び給油施設に限る。）

|  |  |
| --- | --- |
| 炭化水素系物質を排出する施設の種類 | 排出防止処理設備の概要 |
| 貯蔵施設 | □　浮屋根式□　炭化水素系物質の排出防止効果を有する装置装置の名称及び型式　（　　　　　　　　　　　　　　　）排出防止方法の概要　（　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 出荷施設 | □　排出濃度が８容量％以下の排出防止装置装置の名称及び型式　（　　　　　　　　　　　　　　　）排出濃度（容量％）　（　　　　　　　　　　　　　　　）排出防止方法の概要　（　　　　　　　　　　　　　　　）□　除去率が80％以上（温度20℃）の排出防止装置装置の名称及び型式　（　　　　　　　　　　　　　　　）除去率（温度20℃）(％)　（　　　　　　　　　　　　　　　）排出防止方法の概要　（　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 給油施設 | 　□　蒸気返還方式接続設備　□　凝縮式処理設備　□　吸着式処理設備　□　その他の設備設備の名称及び型式　（　　　　　　　　　　　　　　　）設備の概要　　　　　（　　　　　　　　　　　　　　　） |

（注意）　□のある欄には、該当する□内に*レ* 印を記入してください。

（Ａ４）

細則第１号様式その４（第２条第４号）

ばいじんの排出量明細書

（廃棄物焼却炉に限る。）

１　廃棄物焼却炉に係るばいじんの排出量の許容限度等

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 廃棄物焼却炉の番号及び記号 | ①ばいじんの排出量の許容限度Ｑi(ｇ／ｈ)[②×③] | ②係　　数Ｃi | ③定格能力運転時の乾き排出ガス量（Ｏ２12％換算）Ｖ(ｍ３N／ｈ)[21④９×⑤] | ④定格能力運転時の乾き排出ガス中の酸素濃度Ｏi (％) | ⑤定格能力運転時の乾き排出ガス量Ｖi (ｍ３N／ｈ) |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

２　廃棄物焼却炉別のばいじんの排出量等

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 廃棄物焼却炉の番号及び記号 | ⑥ばいじんの排出量　　　　Ｑ(ｇ／ｈ)[⑦×⑧×③⑧] | ⑦ばいじんの排出濃度　Ｃ(ｇ／ｍ３N)[９21－⑩×⑨] | ⑧乾き排出ガス量（Ｏ２12％換算）　　　Ｖc(ｍ３N／ｈ)［21⑩９×⑪］ | ⑨乾き排出ガス中のばいじんの排出濃度　　　Ｃs(ｇ／ｍ３N)　　　 | ⑩乾き排出ガス中の酸素濃度Ｏs (％) | ⑪乾き排出ガス量　　　Ｖs (ｍ３N／ｈ) |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |

（注意）　「Ｑi」、「Ｃi」、「Ｖ」、「Ｏi」、「Ｖi」、「Ｑ」、「Ｃ」、「Ｖc」、「Ｃs」、「Ｏs」及び「Ｖs」とは、別表第５の１(１)に定めるＱi、Ｃi、Ｖ、Ｏi、Ｖi、Ｑ、Ｃ、Ｖs、Ｃs、Ｏs及びＶsをいいます。

（Ａ４）

細則第１号様式その４の２（第２条第４号の２）

廃棄物焼却炉及び廃棄物焼却炉に係る排出ガス処理施設の設備概要書

|  |  |
| --- | --- |
| 廃棄物焼却炉の概要 | □ 連続式のもの □ 連続式以外のもの |
| １時間当たりの焼却能力　　　 □ 200㎏未満（火格子面積2ｍ2未満） □ 200㎏未満（火格子面積2ｍ2以上） □ 200㎏以上625㎏未満 □ 625㎏以上 |
| プラスチック類を含むものの焼却 □ 有　　　　　□ 無 |
| 　廃棄物焼却炉の設備　（別表第５の基準に係るもの。） | 　□ 一次燃焼室　□ 助燃バーナーを備えた二次燃焼室　　　燃焼ガス（800℃以上の状態）の滞留時間　（　　　　秒）　　　一次燃焼室と合わせた滞留時間　　　　　 （　　　　秒）　□ 通風を調整できる設備　□ 上記の設備と同等以上の効果を有すると認められる方法を講じた設備　　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）　□ 炉内温度計及びその記録装置　□ 集じん装置入口温度計及びその記録装置　□ 酸素濃度計及びその記録装置　□ 一酸化炭素濃度計及びその記録装置□ 焼却設備内と外気とが接することなく焼却物を焼却できる構造□ 外気と遮断された状態で、定量ずつ連続的に焼却物を燃焼室に投入することができる供給装置□ 投入する焼却物の重量を検量する装置及びその記録装置 |
| 廃棄物焼却炉に係る排出ガス処理施設の設備（別表第５及び別表第６の基準に係るもの。） | 　□ サイクロン□ 洗浄集じん装置□ バグフィルター　□ その他同等以上の機能を有する集じん装置　　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□ 排出ガス冷却装置　　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）　□ 塩化水素除去装置（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□ 塩化水素濃度計及びその記録装置□ 排出ガス測定口 |

（注意）　□のある欄には、該当する□内に*レ* 印を記入してください。

（Ａ４）

細則第１号様式その５（第２条第５号）

（１）

粒子状物質の排出量明細書

１　指定事業所における粒子状物質の排出量の許容限度

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ＱＤ１（kg/h）[①] |  |  | ＱＤ２（kg/h）[⑦] |  |
| ＱＮ１（kg/h）[②] |  | ＱＮ２（kg/h）[⑧] |  |
| ＱＳ１（kg/h）[③] |  | ＱＳ２（kg/h）[⑨] |  |
|  |  | ＱＨ （kg/h）[⑩] |  |
| 粒子状物質の許容限度（廃棄物焼却炉を除く。）（kg/h）[①＋0.114②＋0.213③] | (a) |  | 粒子状物質の許容限度（廃棄物焼却炉に限る。）（kg/h）[⑦＋0.114⑧＋0.213⑨＋0.915⑩] | (b) |
|  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 粒子状物質の許容限度ＱＰＭ（kg/h） | (a)+(b) |
|  |

２　指定事業所における粒子状物質の排出量

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ばいじん　（kg/h）[④] |  |  | ばいじん　（kg/h）[⑪] |  |
| 窒素酸化物（kg/h）[⑤] |  | 窒素酸化物（kg/h）[⑫] |  |
| 硫黄酸化物（kg/h）[⑥] |  | 硫黄酸化物（kg/h）[⑬] |  |
|  |  | 塩化水素　（kg/h）[⑭] |  |
| 粒子状物質の排出量（廃棄物焼却炉を除く。）（kg/h）[④＋0.114⑤＋0.213⑥] | (c) |  | 粒子状物質の排出量（廃棄物焼却炉に限る。）（kg/h）[⑪＋0.114⑫＋0.213⑬＋0.915⑭] | (d) |
|  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 粒子状物質の排出量（kg/h） | (c)+(d) |
|  |

３　設置、変更及び廃止の概要

|  |
| --- |
|  |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（Ａ４）

（２）

４　ばい煙発生施設（廃棄物焼却炉を除く。）に係る粒子状物質の排出量の許容限度の明細

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 施設番号 | 施設名称 | 設置年月日 | 施設規模 | 燃料種類 | 燃焼能力(L/h)(kg/h)(m3N/h) | ばいじん | 窒素酸化物 | 硫黄酸化物 |
| 係数 | ＷＤ１(L/h) | 係数 | ＷＮ１(L/h) | 係数 | ＷＳ１(L/h) |
| 既存施設 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 計（kL／ｈ） |  | (a) |  | (b) |  | (c) |
|  |  |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ①ＱＤ１（kg/h） |  | (a)が１以上の場合 [0.363×(a)0.865] | 窒素酸化物の排出許容限度 |
| 　　 １未満の場合 [0.363×(a)] | [②÷2.054]（m3N/h） |
| ②ＱＮ１（kg/h） |  | (b)が１以上の場合 [1.06×(b)0.865×2.054] |  |
| 　　 １未満の場合 [1.06×(b)×2.054] | 硫黄酸化物の排出許容限度 |
| ③ＱＳ１（kg/h） |  | [7×(c)×2.857] | [③÷2.857]（m3N/h） |
|  |

（注意）　事業所に設置されているすべてのばい煙発生施設のうち、設置、変更及び廃止する施設は「区分」の欄にそれぞれ「設置」、「変更」及び「廃止」と記入し、それ以外の既存の施設がある場合は「既存施設」の欄に記入してください。

（３）

５　ばい煙発生施設（廃棄物焼却炉を除く。）に係る粒子状物質の排出量の明細

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 施設番号 | 施設名称 | ばいじん、窒素酸化物及び硫黄酸化物の最大排出量等 |
| 排出ガス | 乾き排出ガス中の濃度 | 排出量 |
| 乾き排出ガス中の酸素濃度(％) | 乾き排出ガス量(m3N/h) | ばいじん(g/m3N) | 窒 素酸化物(ppm) | 硫 黄酸化物(ppm) | ばいじん(kg/h) | 窒 素酸化物(m3N/h) | 硫 黄酸化物(m3N/h) |
| 既存施設 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 計 |  | (a) | (b) | (c) |
|  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ④ばいじんの排出量（kg/h） |  | [(a)] |
| ⑤窒素酸化物の排出量（kg/h） |  | [(b)×2.054] |
| ⑥硫黄酸化物の排出量（kg/h） |  | [(c)×2.857] |

（注意）　事業所に設置されているすべてのばい煙発生施設のうち、設置、変更及び廃止する施設は「区分」の欄にそれぞれ「設置」、「変更」及び「廃止」と記入し、それ以外の既存の施設がある場合は「既存施設」の欄に記入してください。

（４）

６　廃棄物焼却炉に係る粒子状物質の排出量の許容限度の明細

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 施設番号 | 施設名称 | 設置年月日 | 施設規模 | 焼却物の種類 | 焼却能力(ｔ／ｈ) | ばいじん | 窒素酸化物 | 硫黄酸化物 | 塩化水素 |
| ＷＤ２ | 係数 | ＷＮ２ | 係数 | ＷＳ２ | ＷＨ |
| 既存施設 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 計(ｔ／ｈ) |  | (a) |  | (b) |  | (c) | (d) |
|  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ⑦ＱＤ２（kg/h） |  | [0.3×(a)0.865] |
| ⑧ＱＮ２（kg/h） |  | [1.06×(b)0.865×2.054] |
| ⑨ＱＳ２（kg/h） |  | [7×(c)×2.857] |
| ⑩ＱＨ （kg/h） |  | [0.5×(d)0.865] |

（注意）　事業所に設置されているすべてのばい煙発生施設のうち、設置、変更及び廃止する施設は「区分」の欄にそれぞれ「設置」、「変更」及び「廃止」と記入し、それ以外の既存の施設がある場合は「既存施設」の欄に記入してください。

（５）

７　廃棄物焼却炉に係る粒子状物質の排出量の明細

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 施設番号 | 施設名称 | ばいじん、窒素酸化物及び硫黄酸化物の最大排出量等 |
| 排出ガス | 乾き排出ガス中の濃度 | 排出量 |
| 乾き排出ガス中の酸素濃度(％) | 乾き排出ガス量(m3N/h) | ばいじん(g/m3N) | 窒 素酸化物(ppm) | 硫 黄酸化物(ppm) | 塩化水素(mg/m3N) | ばいじん(kg/h) | 窒 素酸化物(m3N/h) | 硫 黄酸化物(m3N/h) | 塩化水素(kg/h) |
| 既存施設 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 計 |  | (a) | (b) | (c) | (d) |
|  |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ⑪ばいじんの排出量（kg/h） |  | [(a)] |
| ⑫窒素酸化物の排出量（kg/h） |  | [(b)×2.054] |
| ⑬硫黄酸化物の排出量（kg/h） |  | [(c)×2.857] |
| ⑭塩化水素の排出量（kg/h） |  | [(d)] |

（注意）　事業所に設置されているすべてのばい煙発生施設のうち、設置、変更及び廃止する施設は「区分」の欄にそれぞれ「設置」、「変更」及び「廃止」と記入し、それ以外の既存の施設がある場合は「既存施設」の欄に記入してください。

細則第１号様式その６（第２条第６号）

粉じんの処理方法概要書

|  |  |
| --- | --- |
| 発生源の概要 |  |
| 処理方法 | □　粉じんが飛散しにくい構造の建物内で作業を実施□　集じん設備の設置　　　設備の種類、名称及び型式（　　　　　）　　　湿式、乾式の区分（湿式・乾式）　　　設備の処理能力（処理ガス量ｍ３N／ｈ）（　　　　　）　　　除去率（％）（　　　　　）　　　排出口の実高さ、頂口径（　　　　　）□　散水設備の設置　　　設備の種類、型式及び基数（　　　　　）　　　設　　備　　の　　能　　力（ｍ３／ｈ）（　　　　　）　　　散水の方法（　　　　　）□　防じんカバー等設置　　　　防じんカバー等設置状況（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）　□　その他の処理方法（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）　 |

（注意）　□のある欄には、該当する□内に***レ*** 印を記入してください。

（Ａ４）

細則第１号様式その７（第２条第７号）

悪臭の処理方法概要書

|  |  |
| --- | --- |
| 発生源の概要 |  |
| 処理方法 | □　悪臭の漏れにくい構造の建物内で作業を実施□　脱臭設備の設置　　　設備の種類、名称及び型式（　　　　　）　　　湿式、乾式の区分（湿式・乾式）　　　設備の処理能力（処理ガス量ｍ３N／ｈ）（　　　　　）　　　排出口の実高さ、頂口径（　　　　　）□　悪臭を発生する作業は屋内で実施□　悪臭を発生する作業は屋外で実施　　　　その理由　　　　　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□　周辺に影響を及ぼさない位置で作業を実施□　悪臭を発生する原材料等の保管　　　　保管方法　　　　　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |

（注意）１　□のある欄には、該当する□内に***レ*** 印を記入してください。

２　周辺に影響を及ぼさない位置で作業を実施する場合には、作業実施位置図を添付してください。

（Ａ４）

細則第１号様式その８（第２条第８号）

（１）

排水の汚染状態及び量等の明細書

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　　　　目 | 排水量(ｍ３／日) | ｐＨ | ＢＯＤ(mg/ι) | ＣＯＤ(mg/ι) | ＳＳ(mg/ι) |
|
| 通常 | 最大 |  | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 |
| 排水処理施設名 | ① |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |
| ② |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |
| ③ |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |
| 排水口別 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 合 計 |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　　　　目 | ｎヘキサン抽出物質(mg/ι) | 大腸菌群数（個／㎝３） | (mg/ι) | (mg/ι) |
| 鉱油類 | 動植物油脂 |
| 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 |
| 排水処理施設名 | ① |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ② |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ③ |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 排水口別 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

（注意）１　「排水口別」の左欄には事業所内で管理のため付けている排水口の名称・記号等を記入し、右欄には流入する排水処理施設の番号（①、②、③）を記入してください。

　　　　２　「合計」の欄には、排水口別の水量の合計を記入してください。

　　　　３　項目の欄に記載のない項目については、次の項目のうち排出のおそれのある項目について記載してください。

　　　　　　カドミウム、シアン、有機、鉛、六価クロム、素、水銀、アルキル水銀、ポリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、ほう素、ふっ素、アンモニア等、ダイオキシン類、フェノール類、銅、亜鉛、溶解性鉄、溶解性マンガン、ニッケル、クロム及び1,4-ジオキサン

（Ａ４）

（２）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　　　目 | (mg/ι) | (mg/ι) | (mg/ι) | (mg/ι) | (mg/ι) |
| 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 |
| 排水処理施設名 | ① |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ② |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ③ |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 排水口別 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　　　目 | (mg/ι) | (mg/ι) | (mg/ι) | (mg/ι) | (mg/ι) |
| 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 | 通常 | 最大 |
| 排水処理施設名 | ① |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ② |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ③ |  | 処理前 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 処理後 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 排水口別 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 添付書類 | □　排水口の事業所内位置図 |

（注意）　添付する「排水口の事業所内位置図」には、排水処理施設と排水口を記入してください。

　　　　 （Ａ４）

細則第１号様式その９（第２条第９号）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 処　　　　　　理　　　　　　施　　　　　　設 | 処理施設の名称及び種類 |  |  |
| 設置場所 |  |  |
| 工事着手予定年月日 |  |  |
| 工事完成予定年月日 |  |  |
| 使用開始予定年月日 |  |  |
| 型式 |  |  |
| 構造 |  |  |
| 主要寸法 |  |  |
| 能　　力（ｍ３／日） |  |  |
| 処理方法 |  |  |
| 設計計算書 |  |  |
| 使 用 状 況 | 月使用日数等 | 　　　　　　　　時間／回　　　　　　　　回／日　　　　　　　　日／月 | 　　　　　　　　時間／回　　　　　　　　回／日　　　　　　　　日／月 |
| 季節変動 |  |  |
| 使用する消耗資材 | 名称 |  |  |
| 用途別 |  |  |
| １日当たりの使用量 |  |  |
| 添付図面 | □　排水処理施設の構造・規模・能力を説明する図面及び設計計算書 |

（Ａ４）

細則第１号様式その10（第２条第10号）

地下浸透禁止物質の製造等をする作業に係る施設の構造概要書

|  |  |
| --- | --- |
| 地下浸透禁止物質の製造等をする作業の概要 |  |
| 地下浸透禁止物質の製造等をする作業に係る施設の構造 | 共通の構造 | □　不透水性材質の床面□　耐薬品性及び不浸透性のある材質による床面の被覆□　地下浸透を防止することができる材質の受皿の設置□　その他の浸透防止措置（　　　　　　　　　　　　　　　）□　防液堤、側溝等流出を防止するための構造 |
| ダイオキシン類に係る灰の保管施設の構造 | □　屋根掛け□　コンクリート等地下浸透防止対策のための構造□　えん提等飛散・流出を防止するための構造□　その他 |
| ＜構造の概要＞ |

（注意）　１　□のある欄には、該当する□内に***レ*** 印を記入してください。

　　　　　２　＜構造の概要＞の欄については、必要に応じて図面、写真、設計図等を添付してください。

（Ａ４）

細則第１号様式その11（第２条第11号）

騒音の処理方法概要書

（単位　デシベル）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 発生源である施設等 |  |  |  |  |
| Ａ発生源での騒音レベル | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ |
| 騒　音　対　策　に　よ　る　減　衰　値 | Ｂ音源対策による減衰 |  |  |  |  |
| Ｃ距離減衰 | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ |
| Ｄ建屋による減衰 |  |  |  |  |
| Ｅ防音壁等による減衰 |  |  |  |  |
| Ｆ減衰値合計Ｂ＋Ｃ＋Ｄ＋Ｅ |  |  |  |  |
| 敷地境界線での騒音レベル予測Ａ－Ｆ |  |  |  |  |
| 防音対策の具体的内容 |  |  |  |  |
| 施設の使用時間 | 　時　分～　　　　時　分 | 　時　分～　　　　時　分 | 　時　分～　　　　時　分 | 　時　分～　　　　時　分 |
| 当該事業所に適用される規制基準値 | 【午前８時から午後６時まで】ｄＢ  | 【午前６時から午前８時まで及び午後６時から午後11時まで】ｄＢ  | 【午後11時から午前６時まで】ｄＢ  |
| 添付図面 | 施設等の位置及びその位置から敷地境界線までの距離を示した図面 |

（Ａ４）

細則第１号様式その12（第２条第12号）

振動の処理方法概要書

（単位　デシベル）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 発生源である施設等 |  |  |  |  |
| Ａ発生源での振動レベル | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ |
| 振　動　対　策　に　よ　る　減　衰　値 | Ｂ防振対策による減衰 |  |  |  |  |
| Ｃ距離減衰 | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ | 　　　ｍ　　ｄＢ |
| Ｄその他 |  |  |  |  |
| Ｅ減衰値合計Ｂ＋Ｃ＋Ｄ |  |  |  |  |
| 敷地境界線での振動レベル予測Ａ－Ｅ |  |  |  |  |
| 防振対策の具体的内容 |  |  |  |  |
| 施設の使用時間 | 　時　分～　　　　時　分 | 　時　分～　　　　時　分 | 　時　分～　　　　時　分 | 　時　分～　　　　時　分 |
| 当該事業所に適用される規制基準値 | 【午前８時から午後７時まで】ｄＢ　 | 【午後７時から午前８時まで】ｄＢ　 |
| 添付図面 | 施設等の位置及びその位置から敷地境界線までの距離を示した図面 |

（Ａ４）